

令和7年度 伊勢田こども園 職員自己評価分析

A:あてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない

項目	内容		評価				成果と改善点
			A	B	C	D	
教育・保育目標	1	目標は、乳幼児の実態に即し、実践に繋がるよう具体的な内容になっている。	23%	67%	8%	2%	○昨年度より向上改善に向け進んでいる。以前は、反省で終わっていたが、改善されていることも多い。 ◆PDCAサイクルを用いた協議時間が少ない
	2	目標は、前年度の反省を活かし、全職員で検討し、かつ共通理解をはかっているか。	11%	62%	25%	2%	
	3	PDCAサイクルを用いて、保育・教育の質の向上・改善に努めている。	17%	64%	17%	2%	
教育・保育計画と指導内容	4	教育・保育計画の作成にあたっては、全職員が関わり、基本方針を理解している	12%	57%	28%	3%	○主体性を意識することで、保育の見方が変わった。 ○子どもたちの遊びの中で、主体的な姿が見られるようになり、遊びの世界が広がった。 ◆行事が保育の中で行われるのではなく、行事のための保育となり終わればぶつ切り状態のものがある。 ◆全職員での共有ができていない。全体で共有することで、一貫した方向性をもって対応することが必要である。
	5	指導計画は、乳幼児の実態、園や地域の特色を生かした行事を取り入れている	34%	54%	8%	4%	
	6	支援を要する園児には、合理的配慮のもと、個性や発達状況の理解を深め、継続的・組織的に支援をしている	28%	57%	13%	2%	
	7	子どもの生活が豊かになるよう行事を精選し、子どもの発達を踏まえて、内容や実施の方法について見直し・改善を行っている	20%	60%	18%	2%	
	8	子どもが主体的に活動できるような、人的・物的環境が整備されている	11%	38%	49%	2%	
	9	園児の目線に立ち、気持ちや思いを大切にしている	26%	63%	11%	0%	
	10	一人一人の子どもの心身の状態、生活習慣や文化、家庭の事情、考え方の違いを知り、それを尊重する心を育てている	23%	65%	12%	0%	
	11	子どもの態度、服装、遊びなどで性差への先入観による固定的な対応をしないように配慮している	51%	45%	4%	0%	
運営・組織	12	園務分掌における自分の役割を理解し、実践している	16%	56%	26%	2%	○ドキュメンテーションの活用が多くなり、保護者にその日の活動が分かりやすくなった。 ○SNSの活用で、保護者・職員に情報が発信しやすくなった。 ◆忙しい時、子どもへの対応や職員への対応がゆとりのないものになってしまう。 ◆避難訓練で、保護者への引き渡し訓練が不足している。マニュアルが必要。
	13	職員は常に公平で温かい態度・言葉遣いなどで子どもに接し、信頼関係を築いている	24%	63%	13%	0%	
	14	危機管理・衛生管理・感染症予防対策の意識をもち、避難訓練（火災・地震・不審者・竜巻等）や保健指導を行っている	38%	58%	4%	0%	
	15	職員相互がそれぞれに全体的立場を理解し、協力や助言を惜しむことなく施設の運営に関わっている	34%	53%	13%	0%	
	16	園だより、ホームページ等で、園の情報を意図的に発信している	39%	48%	11%	2%	
	17	教育・保育活動において、職員間で連携を図っている	30%	46%	22%	2%	

令和7年度 伊勢田こども園 職員自己評価分析

A:あてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない

家庭・地域との連携	18	認定こども園として、保護者や地域への子育て支援が欠かせない役割であることを理解している	56%	44%	0%	0%	○保護者アンケートの実施で、保護者の思いをより明確にすることができた。 ○年長クラスが小学生との交流を持ち、保幼小連携が一步進んだ ◆高齢者施設との交流は、年長児だけでなく他の年齢児の交流があるとよい ◆園全体がチームとして対応することが重要である。
	19	園児の思いや保護者の悩み・要望などを誠実に受け止め、管理者や職員間で連携を図りながら、園児の育ちや問題解決に向けた適切な支援を行っている	36%	56%	8%	0%	
	20	保護者が相談しやすいような、環境を整えている	26%	54%	20%	0%	
	21	保育者は日常より保護者や子どもの様子を注視し、虐待の予防や早期発見に努めている	45%	53%	2%	0%	
	22	他施設等の幼児・児童・生徒・高齢者と交流を持ち、充実感を味わえる配慮や援助・支援を行っている	29%	54%	15%	2%	
その他	○今年度は多くの保育者が研修を受けることができ、学びが多かった。各個人の学びを伝達講習を通して、職員全体のものとし、保育の向上に努めたい。 ○子どもが主体的に活動できるよう、子どものやってみたいという興味関心を大切にし、自由に選択・行動できる環境となるよう試行錯誤した。今後の工夫改善していきたい。 ○保育のICT化が進み、ありがたい。負担が減った。 ○事故表をして、職員として理解しきれていない部分があることを再確認することができた。 ◆職員の保育観がばらついていて、クラスが替わった時に子どもが戸惑いをもつのではないかな。保育観の統一が必要である。 ◆新しい若い人材が続かないことが多い。長く続けられるような環境や雰囲気職場となるよう努めたい。 ◆もう少し医療的ケア児受入に力を入れたい。そのために、受け入れ時のガイドライン作成が必要である。						